



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社ニッポン放送 (A)

5

2005年3月24日、株式会社ニッポン放送（以下、ニッポン放送）、株式会社フジテレビジョン（以下、フジテレビ）は、ソフトバンクグループの金融サービス会社であるソフトバンク・インベストメント（以下、SBI）と、メディア・通信分野などの新興企業に投資するベンチャーキャピタルファンド「SBIビービー・メディアファンド」を共同出資で設立することを発表した。これに伴い、関係強化のため、ニッポン放送は所有するフジテレビ株（発行済み株式の13.88%）をソフトバンク・インベストメントに貸し出すと発表。これにより、すでに大和証券 SMBC に貸し出している株式 8.63% とあわせると、ニッポン放送が所有するフジテレビ株は 0% となる。今回の貸株は「ニッポン放送の経営権を握ったライブドアの影響力が、フジに及ぶのを防ぐ狙いとみられる。」^[1]

10

15

フジテレビにとっては、ライブドアによるフジテレビへの経営権掌握から逃れた形となるが、ニッポン放送は依然、議決権の過半数をライブドアに握られている。6月の株主総会ではライブドアが取締役を送りこんでくる可能性が極めて高い。また、ニッポン放送の子会社には株式会社ポニーキャニオン（以下、ポニーキャニオン）、株式会社産業経済新聞社（以下、産経新聞）等、フジサンケイグループにとって重要な企業がある。ニッポン放送はこの「ライブドア問題」にどのように対応すべきか、決断を迫られていた。

20

ニッポン放送の歴史

1954年7月、ニッポン放送は財界の支援を得て開局された。東京放送（現 TBS）、文化放送の2局より、広告媒体としてもう1局あったほうが良いという世論に郵政省が3番目のラジオ局を認める方向を打ち出して誕生した。もともとは申請ラッシュの中、最も有力といわれた「中央放送」と「ラジオ経済」の2社

25

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学経営管理研究科准教授 小幡 績によって作成された。経営管理の巧拙を記述したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 小幡 績（2021年12月作成）